フレーベル賞　選外佳作の八

かくれんぼ

N　子

セッセッセ。

一つ　ひよこは　米の蟲　タイロクネンネ

二つ　舟には船頭さんが　タイロクネンネ

淳子ちやんと　芳ちやんと　京さんと　滿ちやんが　淳子ちやんのお座敷で　まあるくお座り(すわ)して、セッセッセ　のお遊びをしてゐました。

三つ　店には番頭さんが　タイロクネンネ

四つ　横濱異人さんが　タイロクネンネ

五つ　醫者ごんは藥箱　タイロクネンネ

くりかへしてゐるうちに、みんなもういやになりました。

「何か、ほかの事して遊ぼうよ」「お外へ出て戰爭ごつこしやうか」

「なら　かくれんぼはどう?」「でも　たつた四人ぢやつまんないなァ」

「それが　いゝわ」「しやう〳〵」と

皆が　お外へとび出しました。

「ジャンケンポン」「アイコデホイ」「ホイ」「ホイ」

鬼は滿ちやんにきまりました。

滿ちやんは　お椽側の柱に凭つて二つのお手々でお眼々を押へて

「ヒイ、フウ、ミイ、ヨヲ」とかぞへました。

「もういゝかい」といふとどこかで「まあだだよ」と言つてゐます。
「十三、十四、十五、十六」「もういゝかい」
「まあだだよ」
「二十一、二十二、二十三、二十四」
「もういゝかい」「まあだだよ」
とう〳〵百かぞへました。
「もういゝかい」と言ふと　遠くの方で「もういゝよ」といひました。
滿ちやんはお眼々をあいてあたりを見廻しました。
　サア　皆は　どこへかくれたのでせう
　誰が　一番先きに見つけられるでせう
芳ちやんと京さんは　お庭の袖垣のかげに　小ちやくなつて　しやがんでゐました。
淳子ちやんは　ひとりで　お裏の土藏とお隣りの板塀との狹い間隙へ隱れました。
探しに來た鬼の足音は　二度ばかり近づいて來ました。其度に　淳子ちやんは　ビク〳〵してゐましたけれど二度とも　「ゐないわ」といつて　向ふの方へ行つてしまひました。淳子ちやんは
「まあよかつた」　ひとりにこ〳〵してゐました。
フト見ると　土藏の土臺石の下に小さな穴があいてゐます。細い枯枝を拾つて　其穴へさし込むと
スッスッと　はいつてしまひました。
又枝を押し込むと　それも亦すつかりはいつてしまひました。
「何て　深い穴だろうと又もう一度木の枝を押しこむと　それもスッスッと　はいつてしまひました。もう押し込む枝がなくなつてしまひました。

みてゐると其穴から　黑い蟻さんが一匹這ひ出して來ました。さうして
「お孃ちやん　私たちの地下室へ御案内しませう」と申しました。
淳子ちやんは　喜んで蟻のお背へのせてもらつて、エレベーターで　ぐん〳〵と地下室へ降りて行きました。あたりは眞暗で　何が何だかわかりません。
でも「ドン」とエレベーターの　とまつた處は、赤や青の電燈が　眩しい程に輝いてゐてもきれいです。
「サア　こちらへ」　と
蟻さんにつれられて行きますと、きれいな御殿の眞中に蟻の女王樣が　ニコ〳〵と笑つて
「オイデ〳〵」　をしてゐらつしやいます。
女王樣のお傍の素敵に立派なお椅子に腰掛けて、お行儀よくしてゐますと、家來の蟻達が澤山行列して、御馳走を運んで來てくれました。
キャラメルだの　チョコレート　だの大すきな甘いものばかり、淳子ちやんはもうお腹がパンクしさうです。
では少し　お散歩に出かけませう　と女王樣につれられてお庭へ出て見ますと
これは〳〵右へ行く道や左へゆく道や
西にも　東にも　斜にも　澤山々々塹壕の樣な道がついてゐます。どの道もどの道も大賑はひです。
「カキモチ」や、「アラレ」の香ばしい匂ひをさせながらいくつも〳〵くわへて來る蟻もゐます。
伊賀の水月鍵屋の辻はヨウ　と　うたひながら、大きな小唄せんべいを引つかついで來る淒いのも居ます。
「カタヤキ」のまるいのを　笠の代りに頭へのせておどけて居るのもあります。
「きな粉」のこぼれたのを見つけた　と　知らせに來るのもあります。出かけるもの　かへる

ものなご賑やかな事賑やかな事。上野の「五の市」よりも賑はつてゐます。

さうしてその蟻さん達が、途中で出會つたら　きつとお首をかしげて　ごあいさつをしてゐるのです。

エンヤ〳〵と　掛け聲勇ましい方を見ると　これは又大きな蟬を大ぜいが寄つて押したりして運んでくるのでした。

淳子ちやんが　感心してみてゐると、女王樣がおつしやいました。

「かうして今のうちに　食物を澤山貯へて置くと寒い冬が來ても大丈夫ですし、雨が降つてお外へ出られない日が續いても、平氣で居られます。

それに、此お家は鐵筋コンクリート造りですから、飛行機が來て爆彈を落してもこわれないし、毒瓦斯だつて　上のお窓さへ閉めれば　ちつともこわくないのですもの　ほんとうにいゝでせう。

あちらには　廣いお砂場もあるし　おもしろい行列をしてお目にかけますからごゆつくりしていらつしやい」と

いはれましたけれど、淳子ちやんは何だか急にお家へかへりたくなりました。

すると女王樣は

「では又　いらつしやいね」といつて、お土產を澤山下さいました。

淳子ちやんは

「有がたうございます」とお禮を申上げて　蟻さんに送られて又暗いエレベーターで　上へ上へと昇りますと　フワァとして大變好い心持でした。涼しい風が吹いて俄に明るくなつたのでお眼々をこすつて見ますと淳子ちやんは矢張さつきの土藏とお隣の塀の間にゐるのでした。

お日樣はいつか西のお山へおはいりになつて、烏がカァ〳〵とないて行きます。

滿ちやんの鬼はどうしたのかまだ探しに來ません。

おしまひ